

1 エコチル調査の概要

(1) 調査の目的

●エコチル調査とは

正式名称は「子どもの健康と環境に関する全国調査」です



エコチル調査は、環境省が企画・立案し、コアセンター（国立環境研究所）、メディカルサポートセンター（国立成育医療研究センター）を中心として、全国15地域に拠点としてのユニットセンターを設置し、実施している全国的な調査事業です。

環境中の科学物質や生活習慣などが子どもの健康や成長にどのように影響するのかを胎児から13歳になるまで追跡調査し、明らかにすることを目的としています。令和4年3月に基本計画が改定されて、40歳頃まで調査することになり、18歳までの研究計画が定められています。

平成22年から開始し、分析を含めると40年を超える事業ですが、未来に向け「子どもたちが安心して健やかに育つ環境をつくる」ために、大変重要なプロジェクトです。

●なぜ環境中の物質を調べるのでしょうか

ここ50年の間に、科学や技術は急速に発展し、私たちの暮らしはとても便利になり、またこれに伴って、様々な化学物質が身近に増えてきました。こうした人間が作り出した物質が、私たちや子どもたちの健康に、どのような影響や関係があるのか、実はまだ詳しく解明されていないのです。

●なぜ赤ちゃんがお腹にいるときから調べるのでしょうか

ここ数年、ぜんそくやアレルギー疾患、肥満、発達障害などが、子どもたちに増加していると言われています。こういった事象から、子どもは成長段階にあり、身体ができあがっていないため、大人より化学物質の影響を受けやすいのではないか、と考えられるからです。

赤ちゃんがお腹の中にいるとき、お母さんの体には、貴重な情報がたくさんつまっています。子どもの病気が明らかになってからでは、その情報の多くが失われてしまっているのです。

●研究成果は子どもたちや次世代の人のために役立ってます

病気の多くは、遺伝的な性質、生活習慣、環境中の物質などが関係しあって起こります。これらの関係を明らかにすることができれば、病気の予防に役立つ政策を立てたり、子どもが健やかに育つための環境を整備したりすることができます。

子どもたちや次世代の人に健康で豊かな生活をおくってもらうために、今から対策を考え、問題があればそれを改善していかななくてはなりません。エコチル調査は、将来の人たちの健康づくりのために、大変大切な研究です。

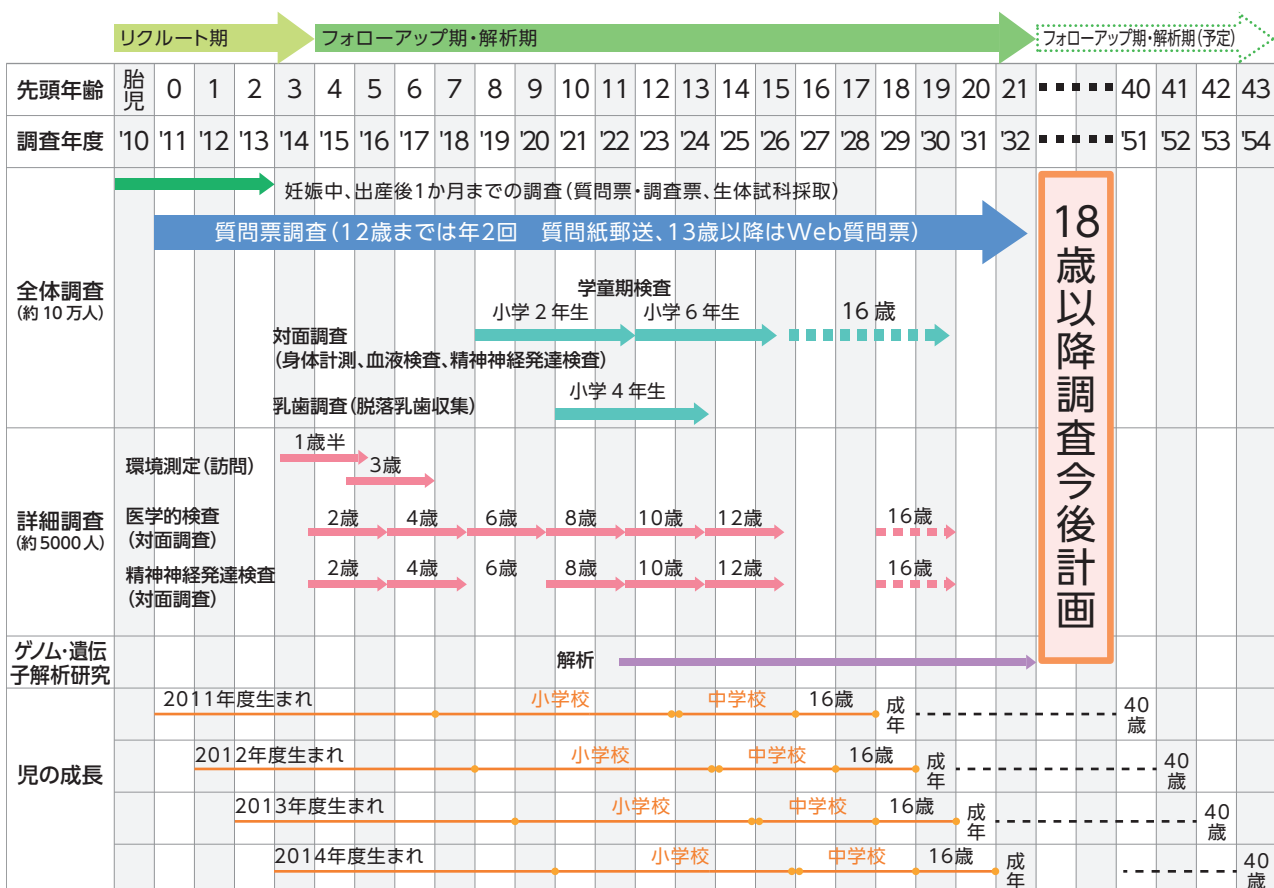
(2) 調査の内容

13歳になるまでの調査

| | | |
|------|--|--|
| 全体調査 | 国内各地の約10万組の子どもたちとご両親に参加していただき、赤ちゃんがお母さんのお腹にいる時から13歳になるまで、定期的に健康や生活の状況について追跡して調べる | |
| | ◆質問票調査 | 妊娠中及び年2回13歳になるまで成長、健康、生活の様子について調べる |
| | ◆学童期検査 | 小学2年生と6年生のお子さまを対象に成長や健康について調べる |
| | ◆乳歯調査 | 小学4年生のお子さまに乳歯をいただき化学物質を調べる |
| 詳細調査 | 全体調査の一部(5%)の方にお願ひし、お子さまの健康と生活環境をより詳しく調べる 対象者：平成25年4月1日以降に生まれたお子さまのうち約5,000名 | |
| | ◆環境測定 | 家庭内の化学物質やハウスダストなどを調べる |
| | ◆医学的検査 | 子どもの健康状態や、成長・発達・アレルギーの体質などを調べる |
| | ◆精神神経発達検査 | 専門の検査者などにより子どもの発達を調べる |
| | ゲノム・遺伝子解析研究 | 妊娠出産時に同意のもとご提供いただき保存した資料を用い、化学物質の量や、健康、成長に関する情報などとゲノム・遺伝子情報との関連を検討する |

※このほか、各ユニットセンター独自の「追加調査」が行われる場合がある。

(3) 調査のスケジュール



(4) 福島ユニットセンターにおける調査概要

ア 調査対象地域

県内全域を対象とする。全国のユニットセンターで県内全域は本県のみ。

●リクルート（参加登録）対象地域の推移

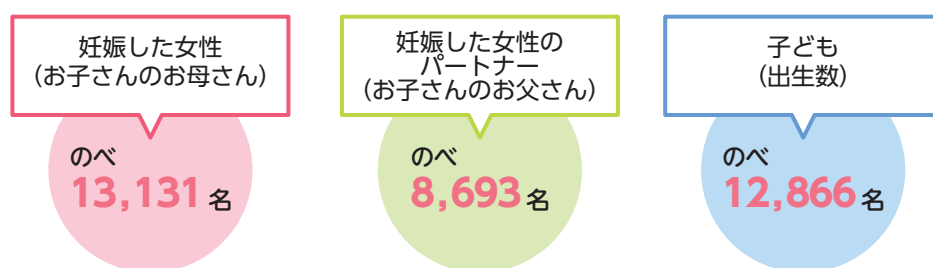
| 時期 | 対象地域 |
|------------|---|
| 平成23年1月開始時 | 福島市、南相馬市、双葉郡（広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村） 計 10 市町村 |
| 平成23年6月以降 | 伊達市、桑折町、国見町、川俣町の4市町を追加 計 14 市町村 |
| 平成24年10月以降 | 県内全 59 市町村に拡大 計 59 市町村 |

※登録期間：平成23年11月～平成26年3月

イ 参加登録者数

全国の15ユニットセンターの登録者親子は約10万組おり、うち本県のリクルート時の登録者（妊婦）はのべ約13,000名で令和6年3月31日現在約11,868名の子どもが調査に参加しており、全国で最も多い参加者数（10%を超える割合）となっています。

●リクルート時の登録者数



妊娠した女性登録のカバー率※は**48.5%**でした。

※カバー率とは、対象地域で登録期間に出生したお子さんの人数に対する登録した妊娠した女性人数の占める割合です。

登録期間中に県内の妊婦さんのうちおよそ「2人に1人」が調査に参加してくれたんだね

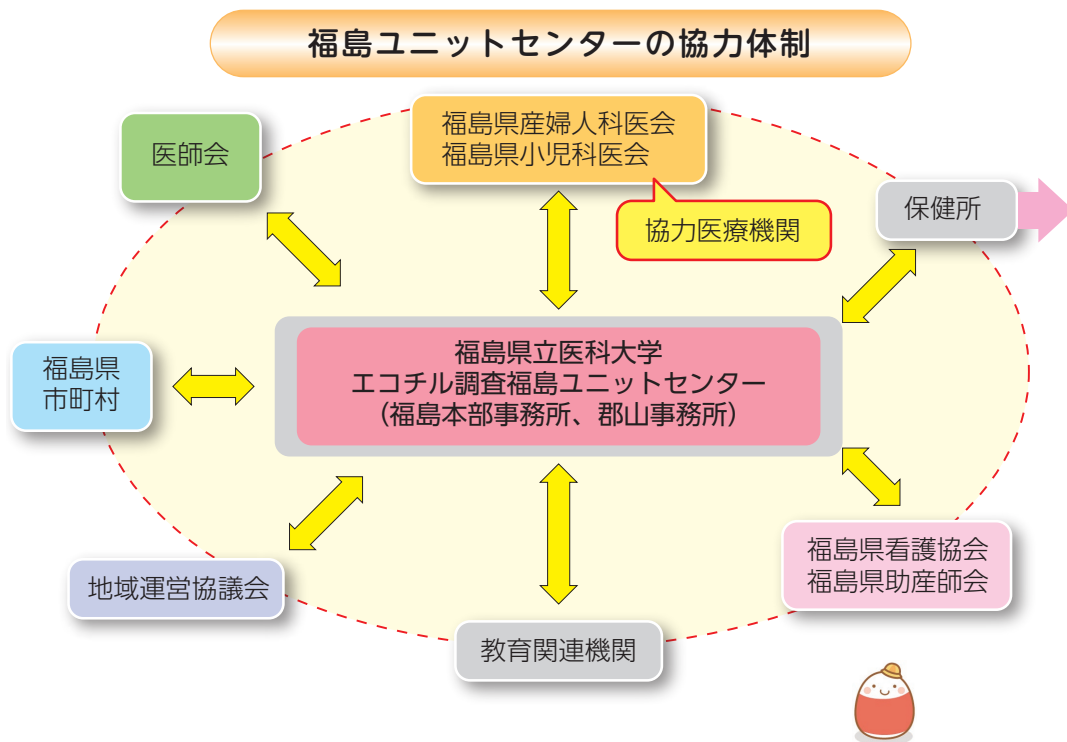


●年齢別エコチルキッズ数（令和6年3月31日現在の登録者数）

| 平成23年度生まれ（12歳） | 平成24年度生まれ（11歳） | 平成25年度生まれ（10歳） | 平成26年度生まれ（9歳） | 計 |
|----------------|----------------|----------------|---------------|----------|
| 913 名 | 1,962 名 | 5,952 名 | 3,042 名 | 11,869 名 |

ウ 福島ユニットセンターの協力体制

エコチル調査の実施にあたっては、参加するお子さまとその家族はもとより、関係機関・団体の協力が不可欠です。そのため、地域運営協議会を設置して効果的な連携を促進することによりエコチル調査の円滑な遂行を図っています。



(5) 13歳以降の調査継続

ア 環境省「健康と環境に関する疫学調査検討会」報告書

エコチル調査基本計画（2010）では、お子さまが13歳になるまで調査を行う計画であったが、思春期以降に発症する疫病等（不妊症、精神神経疾患、生活習慣病等）や参加者の子どもの次の世代の子どもへの健康影響等を確認するためには、13歳以降も調査を展開することが必要とし、エコチル調査を40歳程度まで継続するという方針が打ち出された。（令和4年3月29日）。

イ エコチル調査基本計画の改定

環境省では、基本計画を改訂（令和5年3月30日）し、13歳以降の調査継続が決定した。研究計画書は当面18歳までの調査を組入れた計画に改訂された。

ウ 13歳以降調査継続に関する代諾同意手続

令和5年度より小学6年生参加児の代諾者（保護者）を対象に、エコチル調査参加者ポータルサイトから電磁的方法によりお子さまが18歳に達するまでの調査継続について協力意思の確認を開始した。

エ 13歳以降の調査

ウの項で13歳以降の調査への協力を同意した参加児および代諾者を対象に、令和6年4月よりWeb 質問票調査を開始予定である。